備えあれば憂いなし

家族で考える 防災・救急

9月1日が防災の日であることはご存じでしょうか。これは、大正12年に起きた関東大震災がその由来となっており、その教訓を忘れないということと、この時期に多く発生する台風への心構えのために昭和35年に制定されたものです。

地震大国である日本では、近年、阪神淡路大震災をはじめ、新潟県中越地震、能登半島地震、岩手宮城内陸地震等、甚大な被害を及ぼす大地震が多発しており、それらにいかに対応していくかが大きな課題となっています。

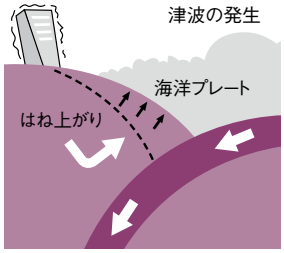
そこで今回は、地震に対する心構えなどを紹介し、自分の身を守るための方策を考えていきます。

地震はなぜ起こるのか

日本で起きる地震は大きく2つのタイプに分けられます。

①海溝型地震

海のプレートが海溝で沈み込むときに、陸地のプレートが巻き込まれ、その反動で巨大地震が起きるというものです。（例：北海道十勝沖地震）津波などの2次災害もみられます。



※文部科学省「地震の発生メカニズムを探る」から引用

②直下型地震（内陸地震）

(1) 活断層型地震

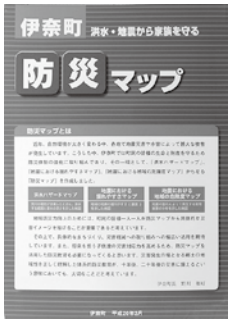
地表に破壊面が現れる活断層による地震をいいます。

(2) 陸と海のプレートが接し、せめぎあう境界付近で起きる地震

この地震の特徴は、規模が小さく被害範囲も限定されますが、震源が浅い場合には大きな被害となります。（例：岩手宮城内陸地震）また、地震予知が非常に難しいといわれています。

伊奈町の被害予想は？

町では、平成18年度から防災アセスメントを行い、災害状況の予想をまとめるとともに、防災計画や防災マップの作成に取り組んできました。



その想定によると、町の近くに存在する綾瀬川断層によるM7．4規模の地震が起きた場合には、町内全域で甚大な被害が起きると予想されています。

例として発生時期を冬の夕方とし、震度6～7となった場合には、建物の全壊が920棟、半壊2，400棟となり、火災も120棟前後が延焼するとみられ、死傷者も1，800人近くにおよび、避難する方については、8，000人程度と予想されています。

そのため、日ごろより住民のみなさんの地震に対する心構えが大変重要になってくるのです。

わが家の地震対策

次に挙げる項目をみなさんの自宅に当てはめてみましょう。

家の中
- 重いものを下に、軽いものを上に収納する。
- じゅうたんや畳の上、寝室や子ども部屋などに倒れやすい家具は置かない。
- 転倒防止シートやＬ型金具等で家具や電化製品を固定する。

家の外
- 瓦のひびは補強しておく。
- 室外機等の安定性を点検する。
- ベランダには重いものを置かない。

火災が起きた場合

落ち着いて次に掲げる初期消火３原則を守りましょう。

①通　報
- 隣近所へ知らせる。
- 119番へ必ず通報。

②初期消火
- 一人で消そうとしない。
- 火が横へ広がっているうちは消火が可能。

③避　難
- 火が天井に燃え移ったら直ちに避難。
- 避難時はドアや窓を閉め、空気を遮断する。

非常時の心得

いざというときのために、家族で防災について話し合う機会を持ちましょう。

非常持出品のチェックを！
最低限の持出品を準備しましょう。

- **ヘルメット（防災ずきん）**
- **懐中電灯**
- **予備電池**
- **飲料水**
- **衛生用品**
- **生活用品**
- **携帯ラジオ**
- **非常食**
- **救急医薬品・常備薬**
- **貴重品**

町における防災対策

町では災害に備え、防災備蓄倉庫を設置しています。倉庫内には、毛布や簡易トイレ、飲料水や食料を備蓄するとともに、職員に対し、初動マニュアルを作成し、有事の対応に万全を期しています。

地震が起きたら？ あせらず、落ち着いて行動しましょう

場所別の心得

自　宅

①料理中
- 揺れを感じたら火を消す。
- 大きな揺れの場合は、消火よりも身の安全を最優先する。

②就寝中
- ふとんや枕で頭を守り、家具が倒れてこないところに伏せる。

③お風呂やトイレでは
- ドアや窓を開け、出口を確保する。
- 風呂の火を消す。

④集合住宅では
- ドアを開け出口を確保。
- エレベーターは使わない。

外出時

①住宅街では
- ブロック塀など倒壊の恐れのあるものから離れる。
- 屋根瓦などの落下物に注意する。
- 切れた電線には絶対に触らない。

②繁華街では
- 手荷物などで頭を守り、広場などに避難する。
- ガラスや看板などの落下物に注意する。
- 建物や塀、電柱などから離れる。

③海岸や崖付近では
- すぐに高台の安全な場所に避難する。
- 手荷物などで頭を守る。

運転時

車を離れるときはキーをつけ、ドアロックはしないこと。

- **一般道路の場合**　徐々にスピードを落とし、道路左側に停車し、エンジンを切る。揺れが収まるまで車内で情報確認を行う。
- **高速道路の場合**　ゆっくりと減速し、左路肩に停車し、エンジンを切る。追突防止のため、三角停止板を目立つ位置に置く。この時大きな斜面の下、トンネル付近等の崩落危険箇所は避ける。

救急救命の切り札

ドクターヘリ発進!!
～伊奈町でも運用開始～

某テレビ局でのドラマなどでも取り上げられている注目のドクターヘリ。埼玉県では埼玉医科大学総合医療センターに1機が配備され、県内の救急救命活動に大活躍しています。

伊奈町消防署でも、このドクターヘリ運用に対応するため、去る7月28日に丸山スポーツ広場を会場とし訓練が行われました。

想定は町内での交通事故により重症となった患者を、ドクターヘリにより救急搬送するというもので、要請により川越の病院を発進したドクターヘリは離陸後約3分で到着。ヘリに同乗する医師、看護師と救急隊員の連携の確認・実際の運用方法等の講義が行われました。

ドクターヘリを利用することで、県内どこでも20分以内で到着できるため、道路渋滞等に関係なく、迅速な現場への到着、救命活動をしながら病院への搬送が可能であることから、救命率の向上と後遺症の軽減が図れると期待されています。

❶ドクターヘリには医師・看護師各１名が同乗する。
❷ドクターヘリの内部。必要な医療機器が確保されている。
❸機体後部より患者を担架ごと機体に乗せていく。